

## 隠岐の自然学散歩－6「島後の海岸を彩る白い流紋岩」

島後の火山噴火は約 600 万年前に島前より少し遅れて、東部地区を除く島全体に亘って噴火が発生し、アルカリ流紋岩及び粗面岩の火山岩が堆積して、島がほぼ円形に近い状態に形成されました。

その結果、北・西・南部の海岸線は、目にも鮮やかな白色系の岩石である流紋岩等で覆われ、それが海岸の景観に彩りを添えているのが島後の大きな特徴のひとつと言えます。



これらの中から主だった地域をご紹介します。見ましょう。



①白島海岸：島後の北端に位置しており、文字通り岬および周囲の島々が白い岩石で構成されていることが名前の由来で、岩質はアルカリ流紋岩で構成されています。

島後を代表する景勝地の一つで国の名勝・天然記念物に指定されていて、展望台からの眺望は周囲の白い島々と群青の海のコントラストが映える美しい景観です。

岬の先端までは徒歩で行くことは大変ですが、島巡りの遊覧船に乗れば、海食洞や波蝕海岸を楽しむことができます。

②久見の流紋岩海岸：島後の北西部の久見海岸は間近に流紋岩の白い岩壁を観察できる絶好ポイントです。ここではマグマの流動時に形成される斑晶の配列などによる流れ模様（流理構造）を見ることが出来ます。周辺に目を移せば、湾内の海面からそそり立った周囲の岸壁には多数の海食洞が穿たれており一見に値します。

またこの海岸からは島後のシンボルとも言えるローソク岩を遠望することができます。



③福浦トンネル：重栖（ヘシ）湾内に突き出た半島の先端にある新・旧二つの素掘りトンネルは、流紋岩と粗面岩の噴火が相互に繰り返された火砕岩をくり抜いて作られています。海側の小トンネルは明治初期にノミを使って手掘りで掘られたもので人道専用、山側の大トンネルは明治 34 年に掘られ、その後車両も通行できる様に拡張されました。この遺構は日本土木学会の「土木遺産」に指定されています。

現在は亀裂や崩落の危険があるため通行禁止となっていて案内表示も無く、貴重な文化遺産が埋もれた状態です。

④岸浜の黒曜石：アルカリ流紋岩と同じ組成だが、マグマが地表近くで急冷されるとガラス質の黒曜石という、似ても似つかぬ黒い岩石となります。

岸浜ではその風化露頭を見ることが出来ますが、他にも数か所、装飾品加工用の採掘現場が現存しています。

この黒曜石は、石器時代には矢じりや刃物として使用されており、隠岐産の石器が日本海側の各所の遺跡で発見されています。

この孤島の石が当時どの様にして本土まで運ばれたのかは興味深い問題ですが、この解説は別の機会に！ ※



※注：写真中央上部のやや黒い部分が黒曜石の露頭で、右下は露頭より採取した小粒の黒曜石